

学校関係者評価委員会報告

< Report from the College Evaluation Committee >

本委員会では「学校機能評価規程」に基づき活動を行ってきた。この数年で自己点検評価と学校関係者評価委員会を軸に、年間の PDCA サイクルが回るようになり、教育の質向上・業務改善に結びつけている。

1. 学校機能評価委員会の取り組み

- (1) 学校関係者評価委員会（6月・1月）を実施して外部委員の方々との意見交換を行った。学校関係者評価委員会報告については別途報告書をまとめ公開している。
- (2) 2024年度の重点項目と担当者を決めて改善に取り組んだ。第2回委員会を前に進捗状況の確認を行い、年度末に各担当者が取り組み状況報告書を作成することにより成果を検証したので以下に記載する。

2. 2024年度重点項目への取り組み成果

(1) 定員充足

理学療法学科は定員の6割、作業療法学科は定員の3割程度と定員充足には程遠い結果となった。

歩留まり率が5割程であることを強みとし、ガイダンス等からのOC誘導が課題。登校に来校がないまま競合校へ流れる層の獲得を目指す。また、OC内で生徒と保護者を分ける等、より個別のニーズに沿った対応をしていく。

体験講座が形骸化または説明時間が長い等の課題があるため、講座方法の見直しを図る。

(2) 国家試験合格率100%達成、国家試験対策教育の充実

第60回国家試験では、理学療法学科26名中25名合格（合格率96.2%）、作業療法学科12名中10名合格（合格率83.3%）であった。理学療法学科で全国（新卒）合格率を上回る結果を達成したものの、作業療法学科は全国（新卒）合格率を下回る結果となった。早期の個別指導やeラーニングシステムを活用した受験対策を実施してきたが、十分な成果には結びつかなかった。そこで、2025年度に向けて早期学習支援の方法、eラーニングシステムの活用法、学内模試や特別講義の内容をより充実させ、両学科で全国（新卒）合格率を上回る成績を達成することを目指す。

(3) データ管理に関するマニュアル作成（ペーパーレス化、データ整理）

概ね計画していた通りの取り組みを遂行出来た。MyiDの保護者登録を確実に実施する。そのためには、入学後早期の働きかけが必要である。

データ管理についてマニュアル作成後の実質的な管理と、定期的なメンテナンスが必要であり、今後も、DX化により業務効率化が可能な業務を洗い出し、更なる業務改善を図る

今後の検討課題としては、電子テキストや、それに伴うIpad等の導入を検討したい。